日本経営論　　佐々木 聡

授業概要

日本経営論では，今日の日本経済の屋台骨を支える大企業の体制が生成し確立して今日にいたるまでの過程を経営史的に理解する。その際、大企業の成立や舵取りを担った企業家の「革新」のほか、大企業システムの代表格であった財閥の定義とその成立、財閥の変容と解体の過程、企業集団の形成と３大メガバンク体制への移行という流れについて講義する。さらに、今日の日本の企業経営システムの特徴についても講義する。これによって、近未来の日本の企業社会を展望する能力を身につけることにしたい。

授業計画

第１回	江戸時代の経済と経営
第２回	会社知識の導入と普及
第３回	渋沢栄一と岩崎弥太郎の企業者活動
第４回	工業化のスタートと政府の役割
第５回	財閥の形成とコンツェルン化
第６回	新興コンツェルンの台頭
第７回	初代長瀬富郎（花王）と２代鈴木三郎助（味の素）の企業者活動
第８回	財界団体の形成と歴史的系譜
第９回	財閥の「転向」と「改組」
第１０回	小林一三（阪急）と堤康次郎（西武）の企業者活動
第１１回	財閥解体と集中排除
第１２回	戦後復興と企業集団
第１３回	高度成長期の企業経営（ホンダとソニーの事例を中心に）
第１４回	３大メガバンク体制
第１５回	理解度の確認とまとめ

到達目標

日本の経営発展の過程の歴史的特徴を理解し、今後の日本の企業システムの在り方を展望する力を身につける。

履修上の注意

毎回、出欠をとる。授業時間内に課題レポートや小テストを課す。課題レポートや毎回の授業での理解度の確認，小テストおよび最終回授業での理解度の確認のいずれも、成績評価の要素となるので注意すること。

予習・復習

テキストの『マテリアル日本経営史』の指定箇所を予習する必要がある。

評価方法

課題レポート（３０％）、授業中に実施する理解度の確認＋小テスト（３０％）、最終回での理解度の確認（４０％）などを総合的に評価する。

テキスト

・教科書名：『マテリアル日本経営史』
・著 者 名：宇田川勝・中村青志
・出版社名：有斐閣
・出 版 年（ISBN）：１９９９年（４－６４１－１６０５３－８）